

- 1 本資料は、千葉県内で発生した安全運転管理者選任事業所、又は運転代行業（以下「安管事業所」といいます。）の従業員が業務中又は通勤中に関係した人身事故を抽出・分析したものです。
- 2 本資料には、他県の安管事業所の従業員が起こした事故の数値が含まれています。本県の安管事業所の従業員が他県で起こした事故の数値は含みません。
- 3 本資料には、物件事故（人の死傷を伴わない事故）の数値は含みません。

安全運転管理者等選任事業所の交通事故発生状況（物件事故除く）

平成29年1月～12月

1 県内の発生状況（運転目的が業務中・出勤中・退社中のもの）

	12月中				累 計				
	29年	28年	増減数	増減率	29年	28年	増減数	増減率	
発生件数	221	187	34	18.2	1,880	1,816	64	3.5	
昼	日の出1時間後	18	6	12	200.0	76	70	6	8.6
	その他昼	103	93	10	10.8	1,222	1,175	47	4.0
	日の入1時間前	10	12	-2	-16.7	86	109	-23	-21.1
	昼計	131	111	20	18.0	1,384	1,354	30	2.2
夜	日の入1時間後	17	17	0	0.0	141	142	-1	-0.7
	その他夜	62	52	10	19.2	317	286	31	10.8
	日の出1時間前	11	7	4	57.1	38	34	4	11.8
	夜計	90	76	14	18.4	496	462	34	7.4
死者数	0	1	-1	-100.0	6	15	-9	-60.0	
負傷者数	255	228	27	11.8	2,265	2,226	39	1.8	
重傷者数	20	23	-3	-13.0	187	190	-3	-1.6	
軽傷者数	235	205	30	14.6	2,078	2,036	42	2.1	

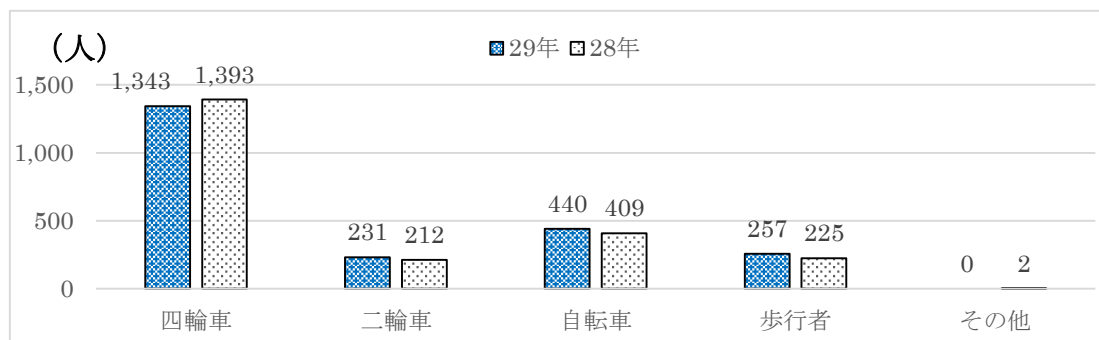
○ 概略

平成29年中の安管事業所における死亡事故は大幅に減少しましたが、事故発生件数と負傷者数は増加しています。交通事故の増加は死亡事故の増加につながりかねませんので、本年も引き続き安全運転管理の徹底をお願いします。

- 平成29年12月中の発生件数は221件（平成28年同期比+34件）、平成29年中の累計発生件数は1,880件（平成28年比+64件）で増加しました。発生件数の増加に伴い負傷者数も年間累計で2,265人（同+39人）と増加しています。

12月中に死亡事故の発生はなく、平成29年中の累計死者数は6人（平成28年比-9人）と大幅に減少しました。6件の死亡事故の内、3件が歩行中の高齢者が犠牲となっており、県全体の特徴と同様に安管事業所の事故においても歩行中の高齢者の死者が多いのが特徴です。

2 死傷者の状態別（平成29年中累計）



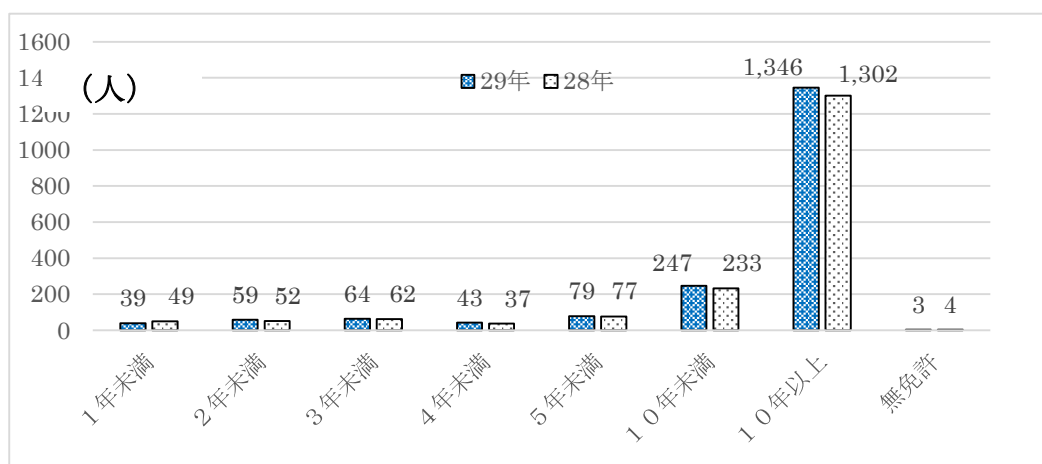
- 死傷者の状態別では、四輪車乗車中が 1,343 人（59.1%、平成 28 年比−50 人）と減少したのに対し、自転車乗車中は 440 人（19.4%、同+31 人）、歩行中の死傷者は 257 人（11.3%、同+32 人）と、重傷事故に発展しやすい対自転車と対歩行者の事故が増加しました。

3 第 1 当事者の運行目的（平成 29 年中累計）



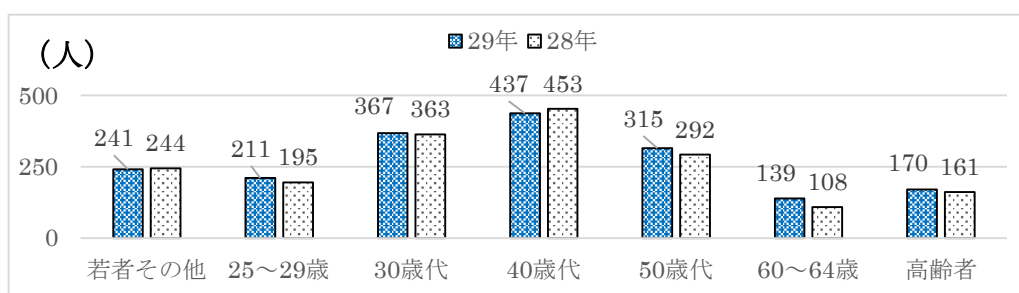
- 第 1 当事者の運行目的は、業務中が 970 人（51.6%、平成 28 年比+30 人）、通勤途中が 910 人（48.4%、同+34 人）と、その比率も前年とほぼ同じでした。

4 第 1 当事者の免許経験年数（平成 29 年中累計）



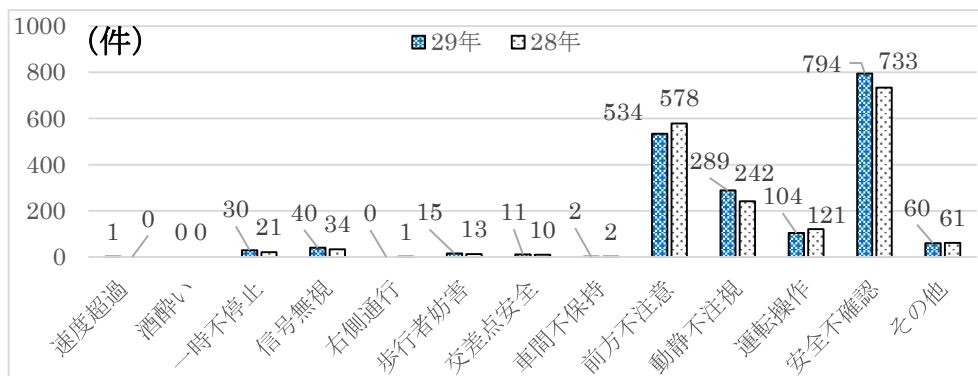
- 第 1 当事者の免許取得経過年数別では、経過年数 10 年以上の者が 1,346 人（71.6%、平成 28 年比+44 人）と最も多く、次いで 5 年以上 10 年未満の者が 247 人（13.1%、同+14 人）でした。1 年未満から 5 年未満の者の合計は 284 人（15.1%、同+7 人）でした。

5 第 1 当事者の年齢層（平成 29 年中累計）



- 第 1 当事者の年齢層は、40 歳代が最も多く 437 人（23.2%、平成 28 年比−16 人）、次いで 30 歳代が 367 人（19.5%、同+4 人）でしたが、60 歳以上の運転者による事故が 1 割以上増加しました。

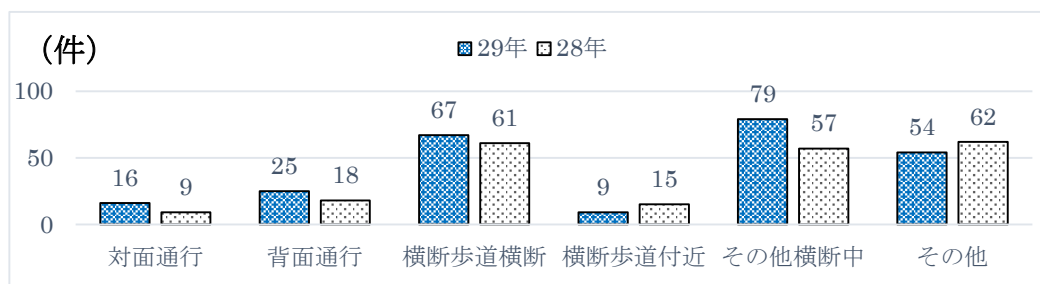
6 第1当事者の違反・原因別（平成29年中累計）



- 事故原因は、前方不注意、動静不注意、安全不確認が多く、合計1,617件で事故原因の86.0%を占めています。安全不確認794件（42.2%、平成28年比+61件）と動静不注意289件（15.4%、同+47件）が増加し、前方不注意は534件（28.4%、同-44件）と減少しました。

7 事故類型（平成29年中累計）

（1）人対車両



- 人対車両の事故は250件（平成28年比+28件）と増加しました。最も多かったのは横断中（横断歩道及びその付近、その他横断中）の事故で、計155件（62.0%、同+22件）でした。人対車両の事故は、重傷事故に発展する可能性が高いので特に注意して下さい。

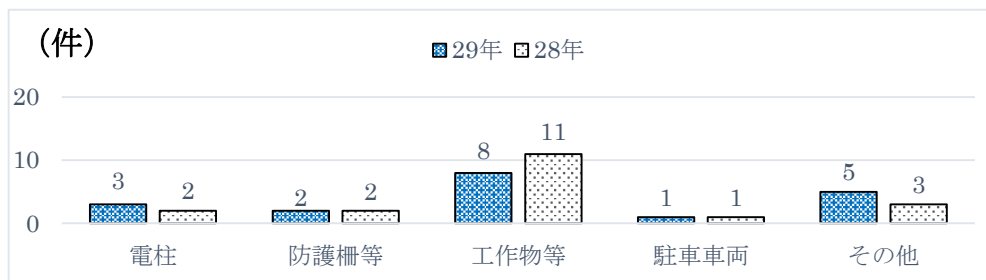
（2）車両相互



- 車両相互の事故類型で最も多いのは追突の721件（38.4%、平成28年比-10件）ですが、中でも出会い頭が455件（24.2%、同+58件）と増加しています。

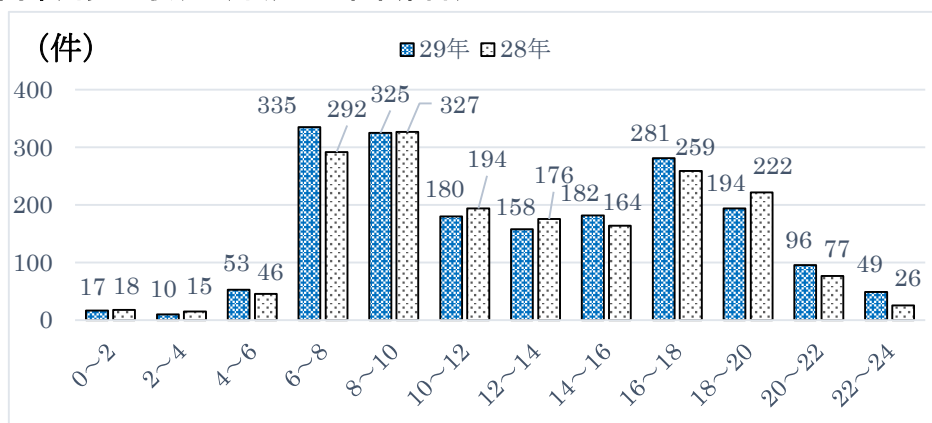
出会い頭事故は追突事故に比べ重大事故に発展する可能性が高いので、信号機が設置されていない交差点では確実に徐行・停止をして、安全確認をする習慣を身に付けてください。

(3) 車両単独



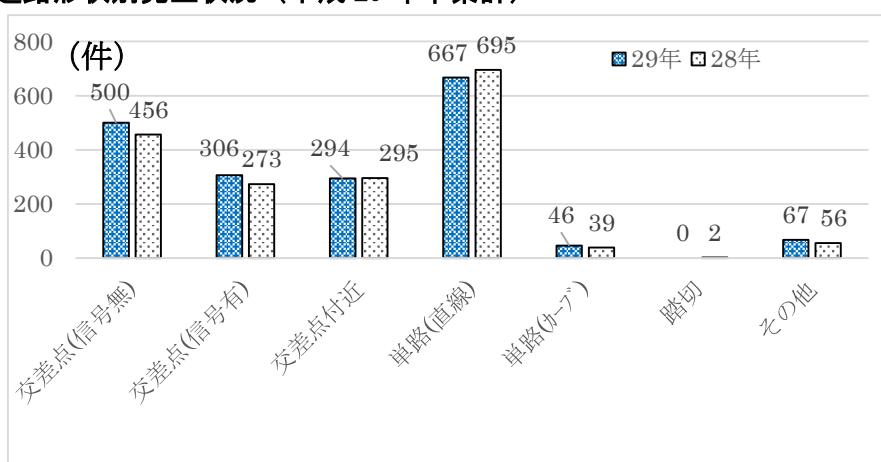
○ 車両単独事故の総数は19件（平成28年比±0件）でした。

8 時間帯別発生状況（平成29年中累計）



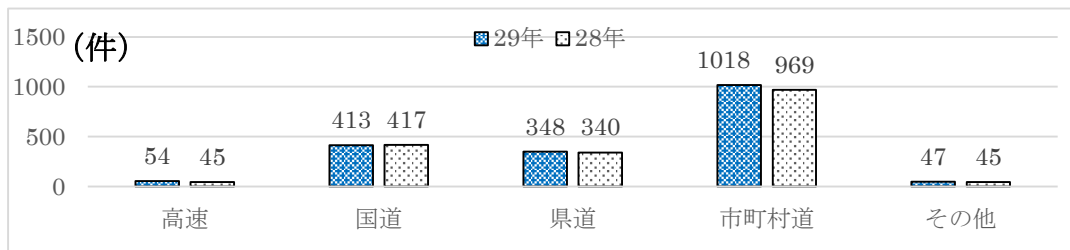
○ 時間帯別で最も多く発生したのは、6時から8時までの335件（17.8%、平成28年比+43件）で、1割以上増加しました。次いで多く発生したのは8時から10時までの325件（17.3%同-2件）でした。6時から10時までの時間帯に事故の3分の1以上が発生していますので、時間的な余裕を持った出勤や出発に心掛けてください。

9 道路形状別発生状況（平成29年中累計）



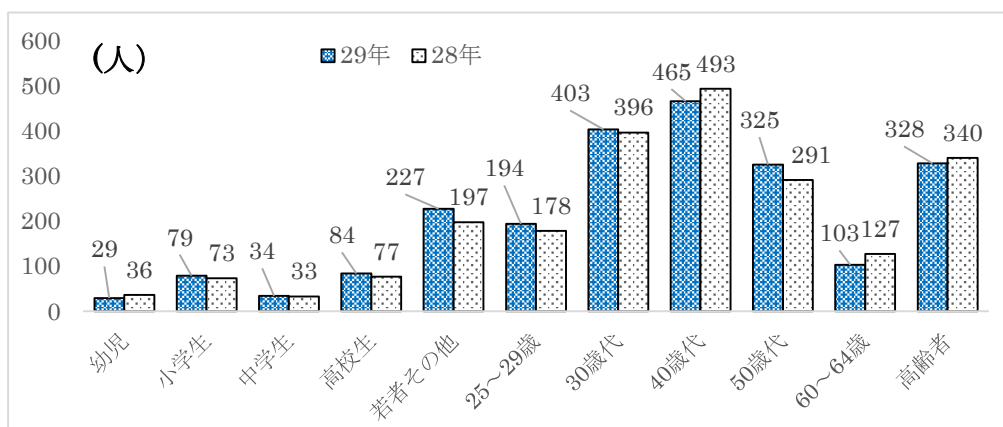
○ 道路形状別では、交差点及び交差点付近の事故が合わせて1,100件（58.5%、平成28年比+76件）と増加したのに対し、単路（直線）の事故は667件（35.5%、同-28件）と減少しました。

10 道路別発生状況（平成 29 年中累計）



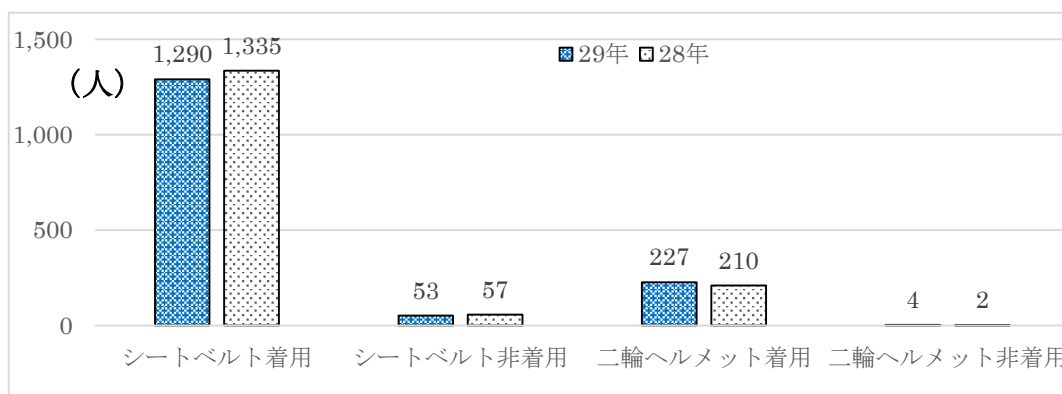
- 道路別では、市町村道が最も多く 1,018 件（54.2%、平成 28 年比+49 件）、次いで国道が 413 件（22.0%、同-4 件）、県道が 348 件（18.5%、同+8 件）でした。

11 死傷者の年齢層別（平成 29 年中累計）



- 死傷者の年齢層別で最も多かったのは、40 歳代の 465 人（20.5%、平成 28 年比 -28 人）、次いで 30 歳代の 403 人（17.8%、同+7 人）でした。高齢者は 328 人（14.4%、同-12 人）と減少していますが、対高齢者の事故は、重大事故になる可能性が高いので、思いやりのある運転に心掛けてください。

12 シートベルト・ヘルメット着用状況（平成 29 年中累計）



- 四輪車の死傷者の内、シートベルトを着用していたのは 1,290 人（96.1%）、非着用は 53 人（4.0%）でした。二輪車の死傷者の内、ヘルメットを着用していたのは、227 人（98.3%）、非着用は 4 人（1.7%）でした。